

「さんべボランティアのススメ～先輩から後輩へ～」

1 趣旨

主体的に社会に参画しようとしている青年を対象に、事業の企画・運営を通してリーダーシップを身に付け、将来のリーダーとなるための体験を通じた学びを提供する。

「さんべボランティアセミナー」の企画・運営に向けた話し合い活動や実習を通して参加者同士のコミュニケーションを深める。

2 事業の概要

(1) 期 日 ①企画編 <オンライン研修>

- I 令和5年4月15日(土)
※3人と一斉に打合せを行った。
- II 令和5年5月8日(月)
※1人ずつ1時間の枠で打合せを行った。
- III 令和5年5月23日(火)
※1人と打合せを行った。
- IV 令和5年6月6日(火)
※2人と打合せを行った。

- ②本番編 I 令和5年5月27日(土)～28日(日) <1泊2日>
※参加者が最少催行人数に達しなかったため中止
- II 令和5年6月10日(土)、11日(日) <両日日帰り>
- III 令和5年6月24日(土)～25日(日) <1泊2日>
※中止にした回の延期分として実施

- #### (2) 会場
- ①企画編 国立三瓶青少年交流の家(オンライン研修)
 - ②本番編 II 城東公民館(松江市)
 - III 国立三瓶青少年交流の家

(3) 参加者 ①企画編 <オンライン研修>

- I 3人
 - II 3人
 - III 1人
 - IV 2人
- ※「先輩のお話」の準備のためにオンライン研修を行った。
合計5人の先輩ボランティアが活動を行った。

- ②本番編 II 5人
- III 3人

(4) 研修内容

①企画編 (オンライン研修)

4/15	14:00	15:00		
		企画説明		
5/8	14:00	15:00	16:00	17:00
		「先輩のお話」打ち合わせ	「先輩のお話」打ち合わせ	「先輩のお話」打ち合わせ
5/23	14:00	15:00		
		「先輩のお話」打ち合わせ		
6/6	14:00	15:00		
		「先輩のお話」打ち合わせ		

②本番編 II

6/10	9:30	10:40	11:30	12:30	13:30	15:00	18:30
	オープニング	講義 「青少年教育施設 の現状と運営」	講義：青少年教育 施設における ボランティア (先輩のお話)	昼食	講義・演習「青少年教育 施設におけるボランティ ア活動の意義」	演習 「ボランティア活動の技術」	解散

6/11	9:00	12:00	13:00	16:30
	講義・演習 「安全管理研修」	昼食	講義・演習 「青少年教育」	解散

②本番編 III

6/24	10:00	10:30	12:30	13:30	17:10	17:30	19:00	21:30
	入所 受付	オープニング	昼食	講義「ボランティア 活動の意義・技術」な ど	夕食 (野外炊飯) 入浴	講義：青少年教育施設におけるボ ランティア活動 (先輩のお話)	就寝	
6/25	6:30	9:00	12:00	13:00	16:30			
	起床 朝のつどい 掃除 朝食	救命救急法講習	昼食	講義・演習「青少年教育」	解散			

※青で塗られたコマが先輩のお話の時間

3 事業の内容

(1) プログラムデザインと企画のポイント

これまでに当所で活動してきたボランティアは「先輩ボランティア」として、ボランティアセミナーの企画と事業運営の補助に当たる。今回の先輩ボラはボランティアセミナー参加者とも年齢が近い社会人ボランティア2人と大学生ボランティア3人に参加を依頼した。新しくボランティア活動を始める参加者のロールモデルになる機会とするために、先輩ボランティアからはこれまでのボランティア活動を通して学んだことをまとめたお話をしてもらった。このように先輩ボランティア

とボランティアセミナーの参加者がつながることで、次の世代のボランティアの育成を継続して行えるように心掛けた。

(2) 運営のポイント

先輩ボランティアが、ボランティアセミナー参加者への講義・演習「青少年教育施設におけるボランティア」の1コマの企画・運営を行う。また、ボランティアセミナーの全日程で先輩ボランティアとボランティアセミナーの参加者が共に活動をする場を設定した。当所でボランティア活動を行う意欲を高めるために、当所の人間関係づくりプログラム「SAP (Sanbe Adventure Program)」や野外炊飯などの活動を通して円滑な人間関係を築けるようにした。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

①企画編 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

②本番編 I (%) 本番編 II (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満		満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	80	20	0	0	事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0	プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0	運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0	職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者（先輩ボランティア）の声

【本番編について】

(大学生先輩ボランティア)

- ・コロナ禍の影響もあり、後輩と交流することがめったにないため、新鮮な体験ができた。
- ・先輩のお話の時間では、「何を伝えたいか」「どのように伝えたいか」を考えるよい機会になった。また、「どうすれば伝わるのか」という視点を得ることができた。
- ・後輩ボランティアが増えることが純粹にうれしく感じる。自分たちの経験に興味をもってくれたことも自分自身の自信につながり自己肯定感が上がった。
- ・参加者が多いとよいと感じた。参加者を集める活動に力を入れられたよい。

(社会人ボランティア)

- ・2年連続で後輩ボランティアと関わる機会を通して、自分の意思を伝えることができよかった。
- ・昨年も話をしたが、昨年の経験も踏まえ、より端的に自分の伝えたいことが伝わるように話をしようと考えた。また、ジェスチャーをしながら伝えたいことを強調することも意識した。
- ・毎年社会人ボラがこの事業に参加できるかはその時々都合でわからない。学びを伝えることが

できる学生を育成していく必要性を感じた。そうすることで交流の家のボランティア育成のサイクルが回るようになると思う。

- ・学生の熱い思いに触れることができ、社会人である自分自身も大きな刺激を受けることができた。今後は後輩ボラと共に三瓶でボランティア活動がしたい。

5 成果と課題

《成 果》

- ・社会人先輩ボランティアの2人は、昨年と同様、「先輩のお話」の枠の中で自身の経験を話した。「昨年の経験も踏まえ、より端的に自分の伝えたいことが伝わるように話をしようと考えた。」というアンケート記述から分かるように、今回の事業は、先輩ボランティアにとって「人に伝える」ためのスキルアップの場となった。
- ・大学生の先輩ボランティアは、後輩ボランティアが興味をもって聞いてくれたことが自信につながっており、自分自身のボランティア活動の活力につながった。
- ・「今後は後輩ボランティアと共に三瓶でボランティア活動がしたい。」というアンケート記述から、ボランティアセミナーの参加者とのつながりを意識したプログラム構成にした結果、社会人・大学生の両先輩ボランティアが今後の活動に向けて前向きになっている様子が分かる。

《課 題》

- ・当所のボランティア活動は、主に島根大学教育学部の「1000時間体験学修」と連携をしながら行ってきた。しかし、この数年間のコロナ禍の影響もあり、当所でのボランティア経験がある島根大学の学生がほとんどいない状態である。そこで、昨年度に引き続き、社会人ボランティアに声を掛けて先輩ボランティアとして、本事業に参加してもらった。ただ、社会人ボランティアは、仕事の合間を縫っての参加となり、毎年継続して本事業に参加できるとは限らない。過去のように学生ボランティアの活動の場をしっかりとつくり、学生間で関わり合いながら学んでいく環境をつくる必要があると感じた。
- ・島根大学では、令和5年6月からボランティア活動における宿泊が許可された。当所においては、この機会を逃さず、主催事業で可能な限りボランティアを呼び、ボランティアの学びの場をつくっていく方針である。

本番編の様子



(担当：企画指導専門職付 中谷 康希)